

松山東雲短大 ○清田美鈴 星野ハル枝 吉田英子 東本千代香

松浦千代子 大坪 敏 宮内秀和

目的 既報では、居敷当てなしの大裁ち女物ひとえ長着着用時の縫目応力について、動作、素材及び体型による影響を報告した。本報は、実用的な縫製を考慮して居敷当てを付けた場合に縫目応力及び耳ぐけ部位のひきつれに及ぼす影響を調べ、特に従来より経験的に付けられている居敷当てについて縫製上の観点から適正素材を見出す目的で検討した。

方法 表地には、既報において着用時縫目応力に顕著な差の見られた岡木綿とシノン縮緬とを選び、伸度の異なる4種の素材を居敷当てとして組み合わせた。実験では、試料を並幅2枚で後身頃を作成し、背縫目を中心として背縫目に対する垂直方向に引張試験機で外力を加え、その時の縫目にかかる応力をひずみゲージを用いて小型感圧体で測定した。同時に、居敷当ての耳ぐけ部位に発生するひきつれの状態を写真撮影した。また、標準体型者による着用実験を行い、前屈、椅座位の動作時における背縫目応力の測定を行うとともに耳ぐけ部位のひきつれ状態の観察を行った。

結果 縫目にかかる応力は居敷当てを付けることによって減少し、特に伸度の異なる表地（岡木綿）の場合に減少効果が大であることが認められ、また、その効果は居敷当て素材の種類による影響がみられ、外力方向に一致するよこ方向の伸度の小さい素材ほど大であった。また、耳ぐけ部位のひきつれは居敷当て素材の伸度の小さいものほど顕著となる傾向がみられ、特に表地が伸度の小さいシノン縮緬においてその傾向が大であった。これらの結果は着用実験においてもほぼ同じ傾向が確認され、居敷当ての素材が表地の布応力の分布および耳ぐけ部位の変形、外観品位に影響することがわかった。